

馬鹿乗りと競馬

八幡祭礼のこと

毎年八月十二日に大佐倉の八幡神社の神輿が酒々井宿に神幸して
いた。

八幡神社は酒々井、本佐倉、大佐倉、墨、尾上、下台、上岩橋、
柏木、八木野の総鎮守であった。

神社を発向した神輿は、本佐倉城大手の坂まで来ると酒々井及上
本佐倉両区の「世話人」が提灯を持って八幡様のお迎えに行く、そ
の他の人はそれぞれの意匠を凝らした祭支度で出迎える。大佐倉の
氏子はおのおの白丁を着て「大八幡だい。去年のままだい。」の掛
声勇ましく神輿を揉みつつ上本佐倉より県道に沿って酒々井、上仲
宿に到り不動尊前の御假屋に納める。（明治中期まで八坂神社に御
假屋）

馬鹿乗り

八幡例祭に競馬が行われる。名主である仲宿の大谷忠左衛門宅の
前に座敷を作つて町奉行らが上覧する。馬鹿乗りはその余興で遠近
の各部落の者が徒歩や馬上にて、各々仮装して練り歩き奉行の上覧
に供す。

その様はいかなるもおどけて馬鹿乗りの名にふさわしきものなり、

これを見んとて付近の老若男女が雲集し来り、仲宿一帯の混雑名状
しがたきものありし、明治中葉より次第に行われず。

競馬

日本三競馬の一と称され酒々井宿の町立てを命じた徳川家康が競
馬を許可した。酒々井仲宿の八幡宮お假屋前より高札場までの二丁
の通りの真中に青竹にて矢来を結び、度々に口を開け、矢来の左右
が馬場となる。

初日は子どもが色々な母衣懸武者のいでたちで馬にのる。その後
ろから大人が羽織姿で其の影を追う。このような競馬は他国に又な
し、牧士であるから、ことのほか上手に馬を乗る、佐倉藩家中から
も多くの者が見物に行く。